

繁殖期のヒメグモの生息する高さ

池田 博明

Hiroyoshi IKEDA. The height of the web of the little orange cobweb spider, *Achaearanea japonica* (Therididae) in breeding season

ヒメグモの神奈川県における生活史は2003年以降の調査で、ほぼ明らかになった(石本ら2005, 2008)が、1990年に筆者は、繁殖期の後期とみなせる8月4日にヒメグモの網の高さを調査していた。調査地は神奈川県小田原市南町の県立小田原城内高等学校のグラウンドに面したマサキの生垣であった。生垣に造網するヒメグモの網の高さを幼体・亜成体メス・成体メス、メスの網に同居するオスに分けて調査していた。どのステージも雌雄でも差は見出せなかったが、以下にそのときの結果を報ずる。

この生垣は植物の高さが鉄製のネットフェンスにそって約2mになっていた。またネットフェンスは約14.6mの長さに渡っているが、途中に四箇所ほど植物のない箇所があり、それらの長さ(177cm, 209cm, 177cm, 110cm)を除くと、実際にヒメグモが造網可能な植物が生えている長さは約790cmであった。奥行きには精粗があり、一概には言えないが奥は校舎の壁であり、植物の厚さは平均50cm見当であった。奥行きは測定しなかった。なお、オス10頭のうち、単独で生息していたオスは1頭だけで、他の7頭は亜成体メスに、1頭は成体メスに、1頭は幼体に同居していた。

オスの個体数は、7月26日21時には26頭を観察したが、7月31日には19頭、8月2日には11頭、8月4日には10頭、8月6日には7頭と急速に減少する。このような減少は1989年もほぼ同様であった(池田1990)。

この調査地で、この日、卵のうを持った成体メスは3頭で、その造網高は52cm, 91cm, 118cmで、3頭とも葉を吊っていた。また、成体メス24頭のうち葉を吊っていたのは14頭(58%)で、亜成体メス55頭のうち葉を吊っていたのは17頭(31%)だった。平均値と標準偏差で比べると、メス成体の生息位置が他と比べて高いように思われるが、メス亜成体と比べてみると、U検定で有意な差は無かった($P > 0.05$)。

表1 ヒメグモの生息する高さ

段階	生息する高さ (平均 ± 標準偏差, cm)	範囲 (cm)	個体数
幼体	76.7 ± 37.61	15~135	15
メス亜成体	74.4 ± 34.29	11~193	55
メス成体	84.4 ± 44.29	5~153	24
オス成体	70.6 ± 44.09	15~131	10

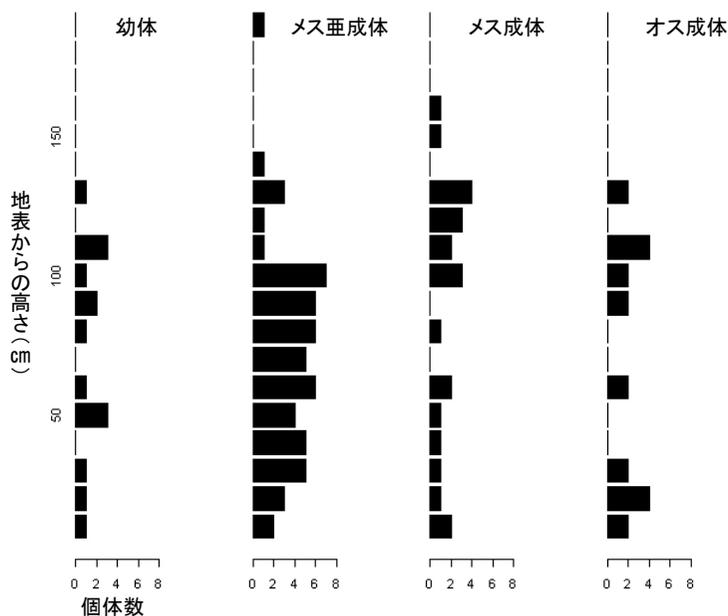


図1 ヒメグモの生息する地表からの高さの分布

左から幼体, メス亜成体, メス成体, オス成体. 調査日 1990年8月4日

このネットフェンスの生垣にはこの時期, ヒメグモだけではなく, ジョロウグモ幼体やコクサグモ幼体も造網している. それらのクモの個体数はジョロウグモ幼体5頭, コクサグモ幼体38頭, クサグモ1頭, オオヒメグモ1頭と, ヒメグモに比べて少なかった.

参考文献

- 池田博明 1989. ヒメグモの配偶行動. *Heptathela*, 4(1): 45-50.
 池田博明 1990. ヒメグモの生活史覚え書き. *Hertathela*, 4(2): 11-16.
 池田博明 1992. クモの配偶行動と糸. 遺伝, 46(8): 32-37.
 池田博明 2010. ヒメグモのオス間闘争. *Kishidaia*, 94:1-7.
 池田 泉 1993. ヒメグモ幼体の生活. *Kishidaia*, 65: 23-28.
 石本 舞・金田愛美・池田博明 2005. ヒメグモの生活史を探る (1) 母親食いは無かった. *Kishidaia*, 88: 35-47.
 石本 舞・金田愛美・池田博明 2008. ヒメグモの生活史を探る (2) 母親の世話の意義. *Kishidaia*, 93: 27-36.